

対話式絵本の読み語りで育てる、 こどもの心と育成環境

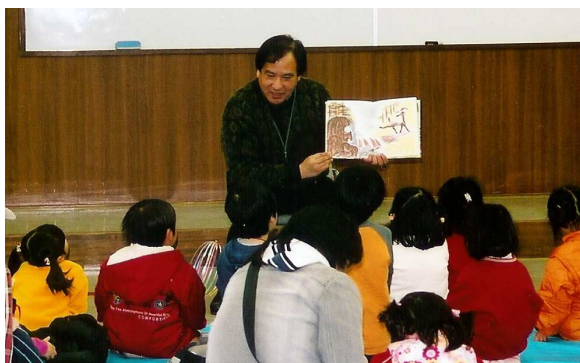
こどもの成長を護る杉並ネットワーク

心の豊かさが育ちにくい環境

テレビやゲームなど受身の媒体が氾濫し、即答・スピード・選択ばかりが求められる環境の中であって、子供たちの想像する力、創造する力、思考する力など、人としての基本的な心の力、自立した心が育ちにくくなっています。そのなかで、絵本がこれら人間の原点とも言えるような力、心の豊かさを育てるのに、とても役に立つと考えています。

絵本による心育て

絵本は心の食事です。
料理ですから、まずは栄養のある良い食材＝心の栄養になる良いテーマをもった良い絵本を選ぶことが必要ですが、もうひとつ大切なことはその子の年齢や状態に合った調理をしてあげること、つまりその子の年齢や心の状態に合った読み語りをしてあげることが大切です。
読み語りの方法は一つではありません。子供に合せて、様々に変化してあたり前。それを、私たちは参加型の「対話式」読み語り方法を紹介することで、保護者の方々への実践を促しています。



絵本で何を育てるか

子供たちは、絵本の中からいろいろなことを学びます。主人公と共に冒険をしたり、泣いたり笑ったり、ゆったりとしたアナログの世界で、自分のペースで想像力を膨らませ、人としての生きる知恵を学び、善悪を知り、意欲をかき立てられ、自分の心を創り上げて行きます。

<絵本が育てる 心の3つの力>

想像する力 (情)
思考する力 (知)
創造する力 (意)

<絵本が伝える 生きる知恵>

善と悪
人間の成長の段階
愛と思いやり ほか

また、絵本の中にある言葉を学びます。語り手が読み語る中から、言葉の意味、言葉に重なる人の情、単語だけではない文章というものの力、響き、それらを受け取って行きます。きちんとした日本語を覚えること、それは自分を表現する力、論理的に物事を考える力の基礎となります。



また、参加型・対話式の中ではコミュニケーションを成り立たせます。日本語力、コミュニケーション力の芽を育てることが出来るのです。

絵本がつくる、子供の家庭環境

さらに、親が読み語りをすることで、親子の対話、親子のコミュニケーションを図れます。
絵本という媒介を通して、親子が心を通わせ、親は子供の心の状態の変化を知ることができ、総じて子供自身を知ることに関与します。例えば仕事に忙しい父親であっても、たった5分でも我が子を膝に抱え絵本を読んであげること、その効果は表れるでしょう。

このように親子が心の絆を結ぶことから、子供は家庭が自分にとって安心できる居場所であることを確認し、親は子供を理解できることで安心し、これらが相乗して子供たちが育つための安定した家庭環境づくりに役立つものとなるでしょう。

絵本を広めるために

身近にある絵本を活用することで、これらのことが図れますから、これを利用しない手はありません。

私たちは、おはなし会のほか、保護者や地域に方々を対象とした絵本講座を開催してこのような絵本の効用をお知らせし、絵本にあるテーマ＝栄養についてお教えしたり、子供たちと共に作る参加型の「対話式」絵本の読み語りの方法をお教える活動を進めています。

<http://www.kodomo-net.org>、 info@kodomo-net.org

